

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「燈夏幻記(とうかげんき)」

テーマ:「人外だと思ったのに、人間だった美少女」

キャラクター

50

ストーリー

40

テーマ(設定)

35

文章力

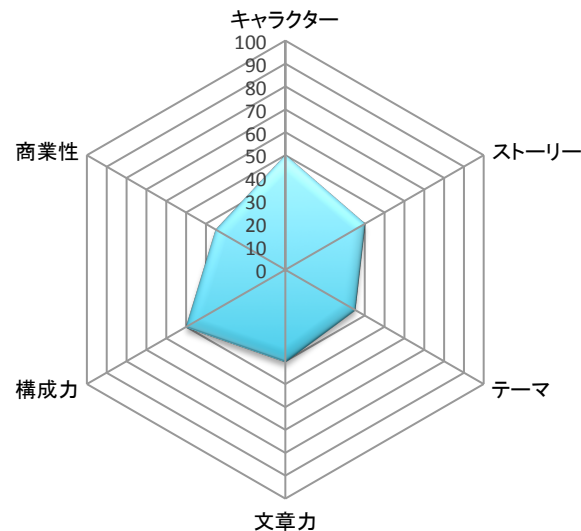
40

構成力

50

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

使用したお題を先に見てしまったため、なんとなく想像していた通りの展開のまま物語が進んでしまった。このことによる減点は一切していないが、驚きが少なかった分無意味に点数を低くしてしまっているかもしれない。この点をご了承下さい。

恐らくホタルは読み手にとって「幽霊的な何か」でミスリードさせられているため、例えばスマホを使い始めるという設定は今作一番の魅力である人外or人間叙述トリックの魅力を弱めてしまうという点で使えない方が良かったのではないかと(スマホを出すという発想そのものは非常に面白かった)。正直「どうしたことなんだろう」というわくわくよりも、「なんで使えてそっちは何で知らないの?」という不自然さの方が勝ってしまった可能性が少なからず否めない。

文字数の関係上未だには森の描像を行う。作者様のクセとして、自分の頭の中で想像している世界観の大きさと、自分が文章で読み手に伝えることのできる世界観の大きさを比較しようとして作品を書き始めてしまうクセがあるように感じられる。例えば反転世界、鏡の世界といった設定は、当作品では「人物が反転した世界」「そうは、まさに反転だ」とした抽象的な説明しかされておらず、作者様自身の中で確立されている世界観のほとんどは読み手に「よわわらん」という認識で受け取られている可能性が高い。また観望世界設定の何かが面白いのも本作で説明されていないため、「で、何が面白いの?」という印象を与えてしまっている。一度読者に反感を与えてしまうと、単純にホタルのフランクなキャラクター性などは面白いのに、これさえも「ふーん」程度にしか受け取ってもらえない可能性が高いため、結果として商業的な価値がかなり低くなっている。この対策として、作品を書いている最中に、「この作品は小学校高学年くらいの子どもも大学生くらいの子どもの大人も面白いと思うかどうか」を意識しながら書くという手段が有効であるように感じられる。

合計加点ポイント 0

総得点: 250 / 600

B方式総合得点: 10417 点